

連載

試論・民族総福音化への道(9)

## 先ず早天祈祷から⑨

副総裁兼事務局長

手束 正昭

(高砂教会牧師)



前回(「民福協」会報第十五号)に続いて、私が体験した早天祈祷の祝福について記したい。

第三の祝福は、難問が解決されていくということである。個人的には勿論であるが、教会としても、早天祈祷は難問の解決に抜群の効果をもたらす。数年前に、ひとりの若い婦人が救われてきた。「ものみの塔」の信者だった方である。彼女には大きな悩みがあった。結婚して十年近くなるのに、何故か子供が与えられなかったのである。ある日彼女は私に祈りを求めてきた。祈りの後、私は彼女に勧めた。「早天祈祷会に来て祈りなさい。そうすれば必ず子供が与えられます」と。彼女は私の言葉に従い、毎朝欠かすことなく早天祈祷会に来て祈り始めた。そして約一年後、彼女は妊娠したのであった。やがて生まれてきた赤ん坊は何と男女の双子だったのである。祈りが効かれましたのである。以後彼女は休まず早天祈祷を続け、その信仰を急速に成長させていつている。生きて働かれる主の力を、早天祈祷を通して体験したからである。

もう一つの証しをしたい。それは私自身に関わることである。四年程前の

ことである。預言の賜物を持つひとりの若い姉妹が私に主の示しを語った。「思わぬ所から悪魔が牧師先生を攻撃してきます。気をつけて下さい」と。果たせるかな、間もなく全く思いもかけない所から攻撃がやって来たのであった。インターネットの「2チャンネル」と

言われる掲示板に私の悪口スレッドが立てられ、誹謗中傷が書き込まれるようになったのである。私はインターネットをしないのであるが、言いようのない深い憤りを覚えた。それは、私の名誉が毀損されたからというわけではない。それもないことはないが、名前を隠して他者を誹謗中傷するという卑怯極まりないやり方に対してである。

数学者藤原正彦氏は、ベストセラーとなった「国家の品格」という著書の中で、日本が品格ある国家となるためには、「卑怯」ということをもつと学校で教えるべきであると説いている。大賛成である。昔の人の言い草に「卑怯者、名を名乗れ」というのがあった。名を隠して他者を攻撃するのは、人間として最低だという倫理観。私はこのような卑怯な連中を何とか法廷に引摺り出して懲らしたいと思ひ、二人のクリスチャン法律専門家に相談をした。すると、

ひとり「断固告訴すべき」と勧めて下さったのだが、他は「誰も信用しませんから、やめた方がよい」とたしなめられた。この二人の専門家の方々の相反する意見の間で、私はどうすべきか迷い、主に祈った。すると、「提訴をやめ、私の前に出なさい」という答えが返ってきた。そこで私は、毎朝早天でこのことを祈り始め、何人かの早天者にも執り成しの祈りを依頼した。すると約二年後、突然にスレッドは消えた。その理由はある人によると、余りの酷さに法務省も法的規制に乗り出したからだと言ひ、また別な人は日本政府の要請を受けて、アメリカのFBIが動き出したから(「2チャンネル」のサーバーはアメリカにある)だとも言われているが、真相は分からない。要するに、主の御手が働いて、難問を解決してくれたのである。

第四の祝福は、健康の保持ということである。日本の諺に「早寝早起き病知らず」というのがある。人間は早く寝て早く起きるといふ習慣さえつけければ、健康で病気になることはないということである。今アメリカでも、「モーニングホスピタル」とか「モーニングケア」と呼ばれる早起きによる健康療法が注目をあびているという。具体的にどのような健康療法かという点、早く起きることによって沈滞した体を刺激し、体の様々な期間の活性化を促していく。それだけではない。精神的にも強化活性化されることにより、それが肉体に

も良い影響を及ぼすという「相乗効果」をもたらすものである。インターネット上にも、ある精神科医が「早起きはうつ病に不思議な効果をもたらす」ということを書いていたのを見て、さもありなんという思いであった。最近の日本におけるうつ病患者の増大は古来からの日本人の美德の一つである「早起きは三文の得」ということを忘れ、夜ふかし遅起きのライフスタイルに陥ったことの結果ではなからうか。このように、早寝早起きをするだけでも、健康の保持を図れるのであるから、それに祈りが加われば、どれ程健康に良いかは想像がつくであろう。朝一番に、祈りによって病気の原因であるストレスを追い出してしまうのであるから、当然健康は増進することになる。

今から一年半程前に、うつ病になつたある兄弟が奥さんに連れられて教会にやって来た。それ迄彼は奥さんが教会に行くのに反対していたが、うつ病になり、今度は自分の方から「教会に連れていってくれ」と奥さんに頼んだ。私は彼と奥さんに「明日から早天祈祷に来て祈りなさい。そうすれば治りますから」と勧めた。彼らはワラにも縋る思いで早天祈祷を毎朝続けた。そして半年後、彼はうつ病から解放され、元気に仕事に復帰できた。うつ病の人達よ、私の教会に来て、早天祈祷会で祈りなさい。そうすれば必ず治りますよ、と宣伝したいくらいである。